



雪の結晶ノート

カッシーノ&ネルソン作 千葉茂樹訳 あすなる書房

雲にまじっている小さな「ちり」。気温がさがると、ちりのまわりに水蒸気がくっついて、水のつぶになります。水のつぶがこおって、まるい氷のつぶに。そこへ、さらに水蒸気がくっついて、やがて、六角形の雪の結晶ができます。あがります。

星印や柱、板のようなかたち…。

結晶のかたちや大きさはさまざまですが、どれも六角形です。

雪の結晶ができるまでやその種類、観察方法などを、美しい写真とともに紹介した本。

